

# 旧外地「工場名簿」集成

**編集復刻版** 全21巻

体裁Ⅱ A5判・A4判・B5判・B4判（原寸または2面付編集）

解説Ⅱ 堀和生（京都大学大学院経済学研究科教授）

戦前期日本の植民地の工業発展は世界的に類例がないが、その評価をめぐって近代化論と収奪論の見解が激しく対立している。

本資料集成には、植民地支配・占領下での樺太、台湾、関東州、朝鮮、満洲国、華北における「工場名簿」四四点を収録し復刻した。

本資料は二〇世紀前半期東アジア工業化の到達点を示すものであり、同時に、戦前当該社会で工業が急速に勃興した理由とその性格を具体的に明らかにすることを可能にするものである。

第1期 台湾編 全6巻

定価Ⅱ 本体揃価格123、000円＋税

第2期 中国編 全9巻

定価Ⅱ 本体揃価格161、000円＋税

第3期 朝鮮・樺太編 全6巻

定価Ⅱ 本体揃価格101、000円＋税

推薦Ⅱ 柳沢遊・やまだあつし

